

実践事例①⑥ 東京都立八王子盲学校

1 取組・活動名

「障害者理解促進校取組」

2 取組・活動のねらい

- 東京オリンピック・パラリンピック大会に向けてシンボルマークを作成し、幼児・児童・生徒の興味、関心を高める。
- オリンピック・パラリンピック教育推進重点校として、視覚障害スポーツを通じて障害者についての理解、啓発に関わる内容を行い、外部へ積極的に発信をし、障害者への理解を深める。
- オリンピアンを招き、幼児・児童・生徒のスポーツに対する意識や競技能力、体力の向上を図る。また、視覚障害者が運動しやすい環境を整える。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間、美術・7時間」

- ・ 美術「エンブレム制作」
事前指導1時間 制作活動2時間
- ・ 総合的な学習の時間「パラリンピアン、地域の小学校交流」
事前指導1時間 交流2時間 事後指導1時間

4 実施上の工夫

- ・ 幼児・児童・生徒が「楽しい」「おもしろい」と思える企画を考えた。オリンピック・パラリンピック委員会を立ち上げ、各学部の意見を反映させながら全校的に取り組んだ。
- ・ 地域の小学校を招き、視覚障害スポーツの交流試合を行い、テレビアナウンサーの実況やゴールボール日本代表のコラボレーションの講話を聞くなど、積極的に他団体と連携を図った。
- ・ 陸上競技のオリンピアンを招へいして、幼稚部から高等部普通科まで実際に実技指導を行い、競技力向上を図った。

5 本取組・活動の内容




- ・ 美術科では、触れるエンブレムを校内に設置し、触って確認できるようにしたいと考えた。また、そのエンブレムを在籍する幼稚部から高等部の幼児・児童・生徒みんなの手で作りたいという思いの元、エンブレム制作の計画を立てた。
- ・ オリンピックとパラリンピック両エンブレムのデザインが形も数も同じパーツで構成されていることを知り、2つの大会が同等に扱われるようにとデザインに込められた作者の願いについても学んだ。体育館の入口に掲示して、いつでも触れて、見られるようにしている。



- ・ 八王子市立式分方小学校6年生を招き、ゴールボールの交流試合を中心とした特別授業をした。
- ・ アナウンサー、本校卒業生でゴールボール日本代表選手、本校教員でブラインドサッカー日本代表の黒田教諭による2020年に向けての対談も開いた。

八盲にゆかりのアスリートからのメッセージ

このコーナーでは、八盲にゆかりのあるアスリートの方々の活躍を、いただいたメッセージと写真を通してご紹介いたします。今後、新しいメッセージが掲載次第、順次掲載内容を追加していく予定です。掲載第1号は、ブラインドボウリング選手として活躍中の高木綾子さんです。



高木綾子さん(ブラインドボウリング選手)
平成7年度高等部専攻科修了

紹介

高木さん(旧姓黒田さん)は、小守道8年の2学期から高等部専攻科理療科まで9年半、八王子盲学校で学びました。現在は、パークレイズ証券株式会社という外資系金融・証券会社の人事室で働きながら、ブラインドボウリングの選手として活躍中です。

- ・ 八王子盲学校のゆかりのあるアスリートからのメッセージを、ホームページに掲載している。
- ・ 視覚障害スポーツの情報を発信し、一人でも多くの方に関心をもってもらうことを目的としている。
- ・ 今後、ゴールボール、ブラインドサッカー、水泳、陸上など様々な視覚障害スポーツを月1回紹介する予定である。

6 成果

- ・ オリンピック・パラリンピック教育重点校の予算を活用して、視覚障害者が安心して、安全に運動することができる環境を整えることができた。
- ・ オリンピック・パラリンピック給食では、教員の故郷の料理を紹介して、日本各地のことについて深く知ることができた。その土地の文化や歴史について学ぶことができた。
- ・ 地域の小学生と交流して、視覚障害スポーツの啓発を行い、主体的に交流することができた。また、卒業生のゴールボール日本代表を招いた講話から、2020年に向けて努力することの大切さを学んだ。